

はじめに

常に社会は変化し、我われの生活や人びとの意識等も変化する。日本における社会問題には、少子化や高齢化に伴い生じている課題が山積し、世界規模においても貧困、紛争、気候変動、感染症等などこれまでになかったような数多くの課題に直面している。人びとの生活上の困難やニーズは複合化・複雑化し、多様であり長期に及んだりもする。その一方で、一人ひとりを重んじ、それぞれの人が自分らしく生きる意識の高まりや、それを実現させていくために社会全体で取り組んでいく動きも増してきたと感じる。

日本においては、2016年に「地域共生社会」の実現が掲げられ、それに向けて包括的な相談支援体制や住民主体の地域課題解決体制の構築が目指されている。社会福祉士・精神保健福祉士への期待や求めが高まっており、それらの養成カリキュラムも改正された。ソーシャルワーク専門職として、ソーシャルワークの必要性和有効性を示し、その専門性を確立していくことで、社会にその存在意義が認められ、専門職としての社会的責任を果たしていかなばならない。

本書は、このような動向を踏まえ、ジェネラリストソーシャルワークの視点から、ソーシャルワークの理論を体系的に理解できるように構成した。ソーシャルワーク理論の体系や構造、ソーシャルワークの専門価値や専門機能、ソーシャルワーク理論の形成、そして総合的包括的支援を取り上げている。社会福祉士・精神保健福祉士の新カリキュラムでいう「ソーシャルワークの基盤と専門職」の範囲である。『ソーシャルワーク論Ⅱ』では、ソーシャルワークの各種方法論と実践理論を概説し、新カリキュラムでいう「ソーシャルワークの理論と方法」の導入にあたる内容を提供する予定である。

本書の出版にあたり、にこん社・北坂恭子氏には大変ご尽力いただいた。また、法律文化社様には、ソーシャルワークに関するテキストを刊行する機会を、私どもに与えてくださったことに深く感謝する。関係者の皆様に心から感謝を申し上げる。

2022年12月

編著者